

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05577

研究課題名(和文)慢性心不全発症・増悪予防への地域性を重視した自己管理支援プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) Development of a community-based self-management support program for patients with chronic heart failure

研究代表者

吉田 俊子 (YOSHIDA, Toshiko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：60325933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：心不全患者の予後の改善には増悪予防への自己管理支援が重要となる。本研究は、慢性心不全患者の地域性を重視した自己管理支援プログラムを開発することを目的とした。全国の循環器診療施設を対象とした質問紙調査では、患者情報に地域差は認められなかったが、看護師が患者教育を実施において地域特性が示された。また面接調査では、教育内容における地域性への対応が必要な項目と患者の居住地域の特徴を踏まえた生活状況を理解し、患者と十分に対話を行う必要性が示された。以上の結果をもとに、都市地域、農山漁村地域の生活状況の特徴を踏まえた自己管理支援プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慢性心不全の発症・増悪予防にむけて地域性を重視した自己管理支援プログラムは報告されておらず、本プログラムの開発により、生活により沿った教育内容の展開を図っていくことが可能となる。今後の地域への健康教育、在宅支援にもつながり、患者のQOL向上に寄与するものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a community-based self-management support program for patients with chronic heart failure. A nationwide questionnaire survey of cardiovascular care facilities showed no regional differences in patient information. However, regional characteristics were indicated in patient education items provided by nurses. An interview survey revealed the need for education based on regional characteristics. Using these results, we developed a self-management support program based on regional characteristics for patients with chronic heart failure.

研究分野：臨床看護学

キーワード：心不全 地域性 循環器看護

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

循環器疾患の終末像である心不全患者の生命予後は不良であり、予後の改善には増悪予防への自己管理支援が重要となる。看護職は患者の生活状況を把握して増悪要因を防ぐよう自己管理教育を行っていくことが求められるが、慢性心不全患者の症状は一定ではなく、症状の自覚が乏しい場合も多く、患者の生活や日々の変化をとらえた、対象の生活にそった再調整を行っていくことが重要となる。居住地域の生活の特徴が自己管理に大きな影響を及ぼしていることが示唆されるが、都市地域と農山漁村地域では生活状況が大きく異なっており、さらに社会的な要因においても、農山漁村地域では生活上の困難に医療機関の少なさがあげられ慢性心不全の発症・増悪予防には、地域性を踏まえた自己管理支援を行っていくことが重要である。地域性を重視した慢性心不全の発症・増悪予防の自己管理教育プログラムは報告されておらず、本プログラムにより、患者の増悪因子の自覚を促し、異常の早期発見や患者個々の生活に寄り添った具体的な教育が可能となる。また慢性心不全患者は、抑うつなどの心理面や社会面での問題が起こりやすく、地域で育まれた生活を重視した自己管理教育は、精神面の向上や生きがいにつながると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、慢性心不全の発症・増悪予防に向けて、都市地域、農山漁村地域の地域性を重視した自己管理支援プログラムを開発し検証する。

3. 研究の方法

- (1) 慢性心不全発症・増悪のリスク因子と、都市地域と農山漁村地域の生活状況との関連性を検討するために、循環器診療施設を対象にした質問紙調査、ならびに慢性心不全患者、自己管理教育に携わる看護師の面接調査を実施した。
- (2) 都市地域、農山漁村地域の地域性を重視した慢性心不全発症・増悪予防の自己管理支援プログラムの策定を行った。
- (3) 地域性を重視した慢性心不全発症・増悪予防の自己管理支援プログラムの実施可能性について検証した。

4. 研究結果

全国の循環器診療施設を対象とした慢性心不全患者の自己管理教育状況の質問紙調査を実施した。日本循環器学会ホームページに掲載されている循環器研修施設、研修関連施設を対象とし、慢性心不全患者の自己管理教育を担当している看護師に無記名質問紙調査を実施した。都市地域、農山漁村地域にある診療施設を抽出し、慢性心不全患者の自己管理教育状況の無記名質問紙調査を郵送法にて実施した。協力施設を総務省統計局(2010)の平成22年度国勢調査の分類を参考にし、第1次産業人口割合により、都市地域、準都市地域、準農山漁村地域、農山漁村地域に分類し、調査内容は、慢性心不全のACC, AHAステージB、ステージCにある患者の増悪因子、日常生活、生活習慣、社会生活、心理面、自己管理への教育内容、教育方法、自己管理継続への対応、教育における課題等について調査項目を設定し、群間での比較を行った。

1361施設の循環器関連病棟の看護管理者(看護師長等)に送付し、448施設の調査協力(回収率32.9%)を得られた。

看護師による慢性心不全患者への退院時教育を実施している施設は、377施設(84.7%)であり、全地域が80%以上の実施率であった。患者教育の実施率、教育内容・頻度、教育方法、教育内容を考える際に考慮する患者情報に地域差はみられなかったが、看護師が患者教育を実施する際に、考慮している地域特性に有意差がみられた。農山漁村地域が各教育項目に対し、有意に考慮していた地域特性を表1に示した。

表1. 農山漁村地域における患者教育に有意に考慮している地域特性

教育項目	考慮している地域特性
基本的な疾患の知識	気候、食文化
症状のモニタリングと管理	気候、食文化
定期受診	地理、気候、地域のならわし
薬物療法	
食事療法	地域住民との関わり
運動療法	地理、地域住民との関わり
節酒・禁煙	地域住民との関わり、地域のならわし
日常生活	地理、食文化、地域住民との関わり、地域のならわし
社会復帰	地理
ストレスマネジメント	家屋
感染予防	

看護師による慢性心不全患者への退院時教育は、多職種と連携を図りながら実施しており、看護師は患者が居住する地域特性を考慮して自己管理教育を行っているが、実際の教育内容および方法には、具体的に反映されていないことが考えられた。慢性心不全患者の居住地域の生活の特徴を重視した自己管理支援プログラムを開発し、看護師への教育および患者へプログラムの提供を行う必要が示された。

面接調査では、外来通院中の慢性心不全患者に対して、半構成的面接法を用いて、自己管理状況と地域との関連する内容についてデータ収集を行った。自己管理状況の分析結果からは、患者は自己管理において、自身の管理の仕方や療養の工夫を基盤として、社会的な支援を受けつつ、増悪を予防しながら生活をしてきたが、その一方で、自分自身ではコントロールできない状況に直面していた。教育内容における地域性への対応が必要な項目として、食事に関する内容、環境への適応についての対処、周囲からのサポートに関する内容が抽出された。慢性心不全患者の自己管理教育を実施している看護師への面接調査の結果からは、居住地域の特徴を踏まえて患者とじっくりかかわり、対話を重視した関わりをもっていた。その上で患者ができそうなことを考える、セルフモニタリングに関する知識を提供し、言葉がけを工夫した教育を実施していた。また退院時の支援体制を固めるために病院内外の支援者との連携を強化し、教育に工夫を行っていた。患者の居住地域の特徴を踏まえた生活状況を理解した上で、患者と十分に対話を行う必要性やまた高齢者が多い地域では、退院後の支援体制が重要であることが示された。

上記をもとに地域性としての確認項目、アドヒアランスを高める関わり、評価項目を確認し、慢性心不全の ACC, AHA のステージ C の患者の自己管理支援を目的とし、都市地域、農山漁村地域の生活状況の特徴を踏まえた自己管理支援プログラムを検討した。慢性心不全看護を専門とする看護師のピアレビューにより修正を行い、評価時期と具体的質問例、地域性確認項目を設定した。さらに、心不全患者への地域性を重視した教育への確認フォーマットとして ICF の心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子についてチェック式のアセスメント内容を設定し、臨床施設で実際に使用されている教育フォーマットの項目と連携した使用ができるように検討した。医療者と確認しながら行動変容の過程に基づき、患者の気づきを促す関わり方を示し、段階的に自己管理行動が獲得できる内容として策定した。慢性心不全患者の看護経験のある看護職にての実行可能性についてヒアリングを実施し、地域性の視点を臨床の現場の教育に反映していくことを確認した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Midori Noguchi, Sumi Kojima, Toshimi Sairenchi, Minako Kinuta, Miyae Yamakawa, Hitoshi Nishizawa, Mitsuyoshi Takahara, Hironori Imano, Akihiko Kitamura, Toshiko Yoshida, Ayumi Shintani, Isao Saito, Tetsuji Yokoyama, Iichiro Shimomura, Hiroyasu Iso	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 Japan Trial in High-risk Individuals to Accelerate their Referral to Physicians (J-HARP) ; a Nurse-led, Community-based Prevention Program of Lifestyle-related Disease	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 194-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20180194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田俊子	4. 巻 14
2. 論文標題 循環器看護における制度・教育・実践、今後の展望への新しい挑戦・創造「循環器看護のこれからを考える」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本循環器看護学会誌	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田俊子	4. 巻 25 (2)
2. 論文標題 心臓リハビリテーションにおけるナースの目	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本心臓リハビリテーション学会誌	6. 最初と最後の頁 156-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田俊子	4. 巻 20
2. 論文標題 「多面的ケア」をつくる・つなぐ～看護の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 聖路加看護学会誌	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izawa H., Yoshida T., Ikegame T. et al.	4. 巻 83
2. 論文標題 Standard Cardiac Rehabilitation Program for Heart Failure	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Circulation journal	6. 最初と最後の頁 2394-2398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1253/circj.CJ-19-0670	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Yoshida T, Shimoyama M, Katsunuma S
2. 発表標題 Evaluation of fatigue levels of workers in areas stricken by the Great East Japan Earthquake to provide nursing support for disaster-related cardiovascular disease.
3. 学会等名 The 5th International Conference of WSDN (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sugawara A, Sasaki K, Katsunuma S, Yoshida T
2. 発表標題 Issues of the New Community Formation and Support system, 6years after the 2011 Great East Japan Earthquake.
3. 学会等名 The 5th International Conference of WSDN (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芳賀美智代, 大熊恵子, 吉田俊子
2. 発表標題 慢性心不全患者と家族の急性憎悪時の症状体験
3. 学会等名 第15回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大熊恵子他, 吉田俊子
2. 発表標題 臨床経験10年以上の看護師が行っている慢性心不全患者への自己管理支援-北海道・東北地区の地域性を踏まえて-
3. 学会等名 第15回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 包括的心不全管理と地域における多職種介入
3. 学会等名 第82回日本循環器学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 勝沼志保里、丸山景子、佐藤大介、大熊恵子、吉田俊子
2. 発表標題 慢性心不全患者への居住地域性を重視した自己管理支援プログラムの開発にむけた調査
3. 学会等名 第82回 日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 循環器看護における制度・教育・実践、今後の展望への新しい挑戦・創造
3. 学会等名 第14回日本循環器看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 瀬戸初江, 吉田俊子
2. 発表標題 循環器疾患患者の患者教育に携わる看護師の患者教育能力評価尺度の開発
3. 学会等名 第14回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田絵美, 吉田俊子
2. 発表標題 慢性心不全患者のセルフモニタリングにおける症状の自覚に向けた看護支援
3. 学会等名 第14回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高岩 奈津美, 吉田俊子
2. 発表標題 慢性心不全患者の療養生活上の自己管理に関する不確かさ
3. 学会等名 第14回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸山景子, 吉田俊子
2. 発表標題 服薬中の高血圧症患者の自己管理行動に影響を及ぼす要因の検討
3. 学会等名 第53回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅原亜希, 吉田俊子
2. 発表標題 虚血性心疾患患者へのセルフマネジメント支援を目的としたアプリケーションの開発
3. 学会等名 第53回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 心臓リハビリテーションにおける看護師の役割
3. 学会等名 第13回日本循環器看護学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 「多面的ケア」をつくる・つなぐ~看護の可能性
3. 学会等名 第21回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sasaki K, Ohara M, Maeda K, Akatuka A, Yoshida T.
2. 発表標題 The Roles of the Medium and Long-Term Nursing Support for the Evacuees Living In the Temporary Housing
3. 学会等名 The 4th International Conference of WSDN (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 心リハにおけるケアの継続 看護師の役割発揮を高めるために
3. 学会等名 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 高血圧・循環器予防における心臓リハビリテーション
3. 学会等名 第42回日本高血圧学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芳賀美智代、吉田俊子他
2. 発表標題 北海道・東北地域に居住する慢性心不全患者の自己管理の状況
3. 学会等名 第16回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅原亜希、吉田俊子
2. 発表標題 心疾患患者のストレスマネジメントの概念分析
3. 学会等名 第16回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 健康寿命の延伸を目指すために循環器看護に求められる役割
3. 学会等名 第16回日本循環器看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 心臓リハビリテーションを循環器対策に活かす
3. 学会等名 第 85 回日本循環器学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田俊子
2. 発表標題 心不全のリハビリテーション「心不全の生活上の注意点」
3. 学会等名 第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 眞茅みゆき監修 池亀俊美他編集 吉田俊子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディカルサイエンスインターナショナル	5. 総ページ数 408
3. 書名 心不全ケア教本第2版（眞茅みゆき他編）	

1. 著者名 上月正博編著 吉田俊子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 418
3. 書名 心臓リハビリテーション第2版(上月正博編)	

1. 著者名 大草知子 吉田俊子 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 (株)イー・エム・タイムズ	5. 総ページ数 159
3. 書名 在宅ケアのためのエッセンス(大草知子編)	

1. 著者名 上月正博 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 126
3. 書名 患者さんのための心臓リハビリ入門 第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大熊 恵子 (OKUMA Keiko) (40284715)	宮城大学・看護学群(部)・教授 (21301)	
研究分担者	宮脇 郁子 (MIYAWAKI Ikuko) (80209957)	神戸大学・保健学研究科・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 伸一 (ISHIKAWA Shinichi) (00327462)	宮城大学・食産業学群(部)・教授 (21301)	2019年度削除
研究分担者	佐藤 大介 (SATO Daisuke) (20524573)	福井大学・学術研究院医学系部門 看護学領域・教授 (13401)	2018年度削除

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関